

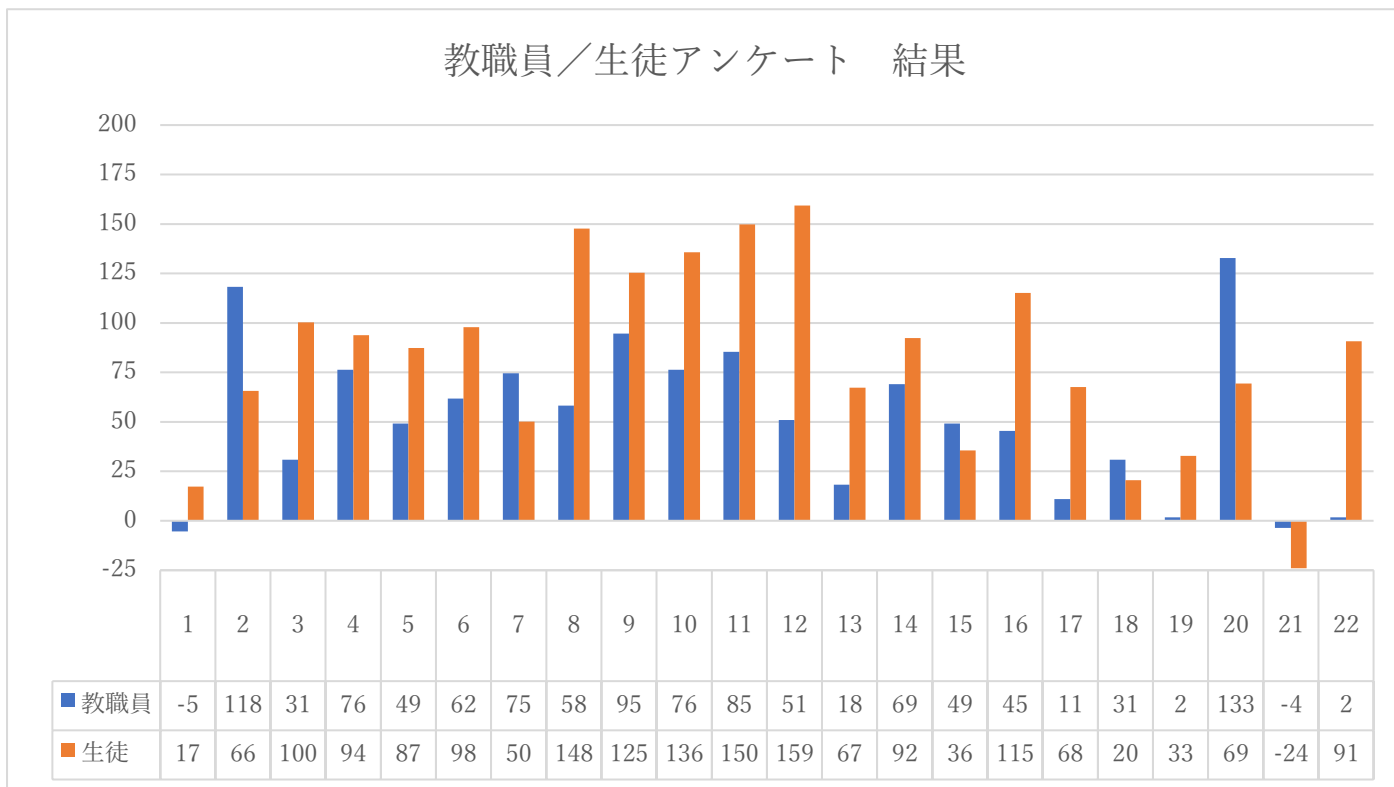
# 令和3年度学校評価アンケート 結果

総務部

## ●教職員及び生徒アンケート結果

教職員及び生徒アンケートの回答を点数化し、比較したものが下記のグラフである。本アンケートは、教職員及び生徒への質問事項を統一し、両者間でのギャップがないかを考察することができる。したがって、このアンケートの結果を今後の学校運営、教育活動へ反映されるよう努めていく。

\*点数は200点満点



### 【質問①】

職：本校生徒は三綱領（至誠・英知・和敬）の意味を理解している。  
 生：私は本校の三綱領（至誠・英知・和敬）の意味を理解している。

教職員 5・生徒 17 と極めて低い結果となっている。本校では、入学後、三綱領の意味について説明しているが、それに留まり日頃の学校生活の中で三綱領に触れることは少ない。よって、日頃の生徒指導の中でも三綱領の意味を見出しながら、指導できるよう工夫を施していく。

### 【質問②】

職：私は分かりやすい授業に努めている。  
 生：本校の先生方の授業は説明が分かりやすいと思う。

教職員 118・生徒 66 と両者間で大きな差異がある。教職員が分かりやすい授業に努めるために、創意工夫をすることは当然のことだが、その内容を生徒が理解できていないのでは意味がない。学校活動の軸は授業であり、より質を高めることは当然のことだが、その結果生徒にきちんと伝わったかどうかの確認を学校全体もしくは各教科で把握する必要がある。

**【質問③】**

職：本校の生徒は授業に前向きに取り組んでいる。

生：私は授業に前向きに取り組んでいる。

教職員 31・生徒 100 と両者間で大きな差異がある。本アンケートは 200 点満点だが、生徒は丁度半分の生徒が前向きに取り組んでいると回答しているため、その他半分の生徒は取り組めていない現状が分かった。教職員の回答が 31 となっているのを見ると、おそらくこれらの生徒に着目した結果だと推察される。授業に前向きに取り組めない生徒は、入学時点でそのような傾向にあり生活習慣から見直さなければならないことが多い。よって、教職員からの働きかけだけでなく、家庭との連携・スタディサプリの活用などさまざまな対応が必要である。

**【質問④】**

職：本校は進路目標の充実に向けて努力している。

生：本校は進路目標の達成に向けて適切な指導を行っていると思う。

教職員 76・生徒 94。教職員の結果より、生徒の方が上回っていることは良い事だが、より高い結果を目指すべきである。高校の役割は、生徒の進路を実現できるようにすることであり、その達成に向けて教職員はより進路指導を強化しなければならない。

**【質問⑤】**

職・生：本校は進路目標達成に応える十分な情報が揃っていると思う。

教職員 49・生徒 87。質問④と同様に、生徒の結果が上回っていることは良い事だが、やはり進路実現に向けて上級学校の情報、過去の受験報告書などより充実した内容で生徒に必要な情報を取り揃えていくことに尽力していかなければならない。また、学校が保有している情報を生徒が活用しやすいように、整理し提供しなければならない。

**【質問⑥】**

職：本校生徒は進路目標の実現に向けて努力している。

生：私は自分の進路目標の実現に向けて努力している。

教職員 62・生徒 92。高校卒業時の最大の目標である進路実現に向けて、努力できている生徒が半数以下という点に、教職員は着目しなければならない。より、生徒自身が進路目標を設定し実現できるように教職員からの声掛け、家庭との連携、外部業者の活用など様々な働きかけを行っていく。

**【質問⑦】**

職・生：本校の生活の規律（挨拶・時間を守る・服装など）についての指導は適切であると思う。

教職員 75・生徒 50。多くの教職員及生徒が適切ではないと感じている。校則を遵守する意義を教職員も含めもう一度見直すべきである。また、挨拶や時間を守るなど、教職員は指導する側の立場として自らが遵守できるように努めなければならない。

**【質問⑧】**

職：本校の生徒は校則をきちんと守っている。

生：私は校則をきちんと守っている。

教職員 58・生徒 148。両者間で大きな差異があるが、生徒自身が校則をきちんと守れているという意識があることは大変素晴らしい事であるが、教職員はそう感じていない部分が多々ある。一部の生徒の校則違反がそういう意識に繋がっていくため、日頃から生徒指導を強化していく。また、厳しい指導だけでなく生徒の視点に立ち、理解を得られるよう、校則の意義も生徒に伝えていけるよう工夫をしていく。

**【質問⑨】**

職：本校の生徒は普段からいつでも誰にでも進んで挨拶を行っている。

生：私は普段からいつでも誰にでも進んで挨拶を行っている。

教職員 95・生徒 125。両者間に多少の開きはあるが、比較的高い結果となっている。本校生徒は部活動生だけでなく、全ての生徒が自ら爽やかな挨拶を行うことができている。我々教職員からも挨拶を促すために、積極的に挨拶を励行していきたい。

**【質問⑩】**

職：本校の生徒は時間をきちんと守っている。

生：私は時間をきちんと守っている。

教職員 76・生徒 136。学校生活には時程がきちんと定められている。時間に余裕を持って時程通りに行動できるよう意識付けを行っていく。チャイムが鳴ってから動くのではなく、チャイムが鳴る前に動けるよう目指していく。また、教職員も授業開始時などチャイムと共に授業が始められるようにしなければならない。

**【質問⑪】**

職：本校の生徒は服装・頭髪をきちんとしている。

生：私は服装・頭髪をきちんとしている。

教職員 85・生徒 150。両者間に大きな開きがあるが、生徒の結果は非常に高いものとなっている。服装・頭髪指導の目標は、就職試験及び進学試験時に相手に不快感を与えないものであり、その意義を生徒に伝え、日頃の学校生活の中でもきちんと遵守できるよう指導を行っていく。ほとんどの生徒はきちんとできるいるため、一部の生徒の生徒が指導内容に納得した上で、遵守できるよう工夫をしていきたい。

**【質問⑫】**

職：本校の生徒は交通ルールをきちんと守っている。

生：私は交通ルールをきちんと守っている。

教職員 51・生徒 159。生徒の意識は非常に高くなっている。ただ、交通社会の中で、きちんと行動できているという錯覚に陥っており、実際には他者に迷惑をかけていたり、危険な行動をとっていたりしているケースがある。この項目は命にも繋がるものでもあるため、正しい交通ルール、マナー、知識を身に付けられるよう、講演を依頼したり、日頃の学級活動の中で学習できるよう工夫を凝らしていきたい。

**【質問⑬】**

職・生：本校は快適な学習環境にするために施設の整備に力を入れていると思う。

教職員 18・生徒 67。両者とも非常に低い値となっている。ただ、近年ICT化に向けて、少しずつ整備を進めている最中であり、より生徒が充実した環境で学習できるようよりスピード感をもって整備を進めていきたい。

**【質問⑭】**

職：本校の生徒は校内美化に努め学校を美しくしようとしている。

生：私は校内美化に努め学校を美しくしようとしている。

教職員 69・生徒 92。本校の清掃時間は15分間であるが、まずはその時間内担当区域をきちんと清掃できるよう指導を行っていききたい。また、清掃時間外でもごみが落ちていたら拾うなど、日頃から校内美化についての意識を持てるようにしていきたい。

**【質問⑮】**

職・生：本校には悩み事を相談しやすい雰囲気があると思う。

教職員 49・生徒 36。両者とも低い結果となっている。本校には、SSW（スクールソーシャルワーカー）も在籍しており、予約制でカウンセリングを受けることができるようになっている。ただ、それだけでは「相談しやすい雰囲気」には直結していない。教職員は日頃より、生徒たちの信頼関係を築くことに努め、「生徒の声を聞く」という姿勢を持てるようにしたい。また、こちらが受け身になるのではなく、生徒の言動・行動・表情などから違和感があった場合には、さりげなく声掛けをするなどしていきたい。

**【質問⑯】**

職：本校の生徒はお互いの意見を尊重し合うようにしている。

生：私はお互いの意見を尊重し合うようにしている。

教職員 45・生徒 115。学校生活の中で、トラブルに繋がりやすい事項としてコミュニケーションが挙げられる。友人間でのトラブル、場合によっては教職員とのトラブルも起きることがある。昨今の傾向として、自分自身の意見を主張することばかりに注力してしまい、相手の話を聞くということができていないケースが多い。また、教職員と生徒間でも、生徒の話を聞かずに一方的な話の展開で生徒が苦しい思いをしている可能性もある。教職員、生徒共に相手を慮る気持ちを持てるようにしていきたい。

**【質問⑰】**

職・生：本校の人権教育は充実していると思う。

教職員 11・生徒 68。教職員に対して生徒は約6倍の結果とはなっているが、満点から考えると程遠い結果となってしまっている。人権とは人が生まれながらに持っている権利であり、教職員は人権について考え、理解を助長し、人権尊重の価値観・態度を育て行動へと向かわせる活動を行えるよう工夫をしていきたい。

**【質問⑱】**

職・生：本校の学校行事（体育祭・文化祭・歓迎遠足等）は充実していると思う。

教職員 31・生徒 20。この項目についてはコロナウイルスの影響が強く働いていると推測されている。今年度の1・2年生は入学後、ほとんどの学校行事が中止・延期・縮小のいずれかで対応しており、本来の開催形式とは程遠いものとなっている。ただ、このような状況が今後も続くことが予想されるため、コロナ禍でも少しでも生徒が充実した学校行事に参加できるように運営する教職員で意見を出し合い、実行できるようにしていきたい。

**【質問⑲】**

職・生：本校の図書館は利用しやすい。

教職員 2・生徒 33。教職員が極めて低く、生徒も1/4以下である。まずは、この原因を追究して生徒利用しやすい環境になるよう努めていきたい。

**【質問⑳】**

職：本校の生徒は積極的に部活動に取り組んでいる。

生：私は部活動に積極的に取り組んでいる。

教職員 133・生徒 69。質問⑱と同様、コロナウイルスの影響が強いように感じる。強化部・準強化部は練習時間短縮ながらも、最低限の活動を確保されていたが、それ以外の部活動に関しては、年間を通して著しく活動時間が削られている。また、試合やコンクールなども中止・延期・縮小が余儀なくされているため、達成感が得られていない生徒がたくさんいるように感じる。コロナ過での活動の在り方も考えていきたい。

**【質問①】**

職：本校の生徒はボランティア活動に積極的に取り組んでいる。

生：私はボランティア活動に積極的に取り組んでいる。

教職員－４・生徒－２４。極めて低い結果となってしまっている。本校では、厚生委員会を中心にボランティア活動案内などを行っているが、コロナウイルスの影響で過去２年間ほとんどの活動の場が失われている。そういったことを受けて、活動への参加できない生徒が増加していると考ええる。また、部活動ごとに学校周辺の地域の清掃活動等を行っているが、個人でも取り組んでいけるよう声掛けをしていきたい。

**【質問②】**

職：本校の生徒は配付物など家庭に持ち帰り保護者に確実に伝えている。

生：私は配付物などを家庭に持ち帰り保護者に確実に伝えている。

教職員２・生徒９１。両者に大きな開きがある。生徒は約半数の生徒ができていると答えているが、教職員の印象としてはそうではない。ただ、教職員は各個人ができているかということよりも、クラス全体できているか、配付後の提出物の回収が全員揃っているかということに注視してしまう傾向になるため、このような結果がに繋がっているのではないかと考える。よって、マクロの視点とミクロの視点を持ち、全体への呼び掛け及び個人への声掛けを徹底していきたい。